

日本爬虫両棲類学会

第46回大会プログラム

The 46th Annual Meeting of
the Herpetological Society of Japan

琉球大学法文学部 西原

2007年11月17日(土)～11月18日(日)

共催：琉球大学21世紀COEプログラム

「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」

日本爬虫両棲類学会 第46回大会

日程：	2007年11月17日(土)	2007年11月18日(日)
	受付 08:30～	受付 08:30～
	開会式 10:00～10:05	口頭発表 09:00～12:15
	口頭発表 10:10～11:40	記念写真撮影, 昼食
	昼食	総会 13:30～14:30
	口頭発表 13:00～15:45	特別講演 14:30～14:45
	ポスター発表 15:45～18:15	シンポジウム 14:45～16:25
	懇親会 18:30～20:30	開会式 16:25～16:30
		自由集会 16:45～19:00

会場：沖縄県中頭郡西原町千原1番地 琉球大学法文学部講義棟

- ◇ 法文学部講義棟は法文学部本館のすぐ横の駐車場側にあります。
- ◇ 那覇市よりバスご利用の方は、那覇バスターミナルまたは国際通りより、97番または98番をご利用下さい。97番はバス停「琉大東口」、98番は「琉大北口」でお降り下さい。「琉大東口」から徒歩約5分、「琉大北口」から徒歩約10分です。
- ◇ 空港より高速バスご利用の方は、111番また113番で、バス停「琉大入口」でお降り下さい。バス停から徒歩約12分です。
- ◇ 詳しくは、http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/general/access/index.html, または、http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/kouhou/gaiyou/access.html

会費：大会参加費3,500円, 懇親会費4,500円

受付・クローク：法文学部講義棟入口

- ◇ 受付開始は、11月17日(土)・18日(日)ともに、8時30分からです。
- ◇ 参加申し込みをされている方は、受付で名札等をお受け取り下さい。
- ◇ クロークは、受付横です。17日(土)は8時30分から18時15分まで、18日(日)は8時30分から16時30分まで、ご利用いただけます。

昼食：

- ◇ 11月17日(土)は大学生協の食堂をご利用下さい。
- ◇ 18日(日)の弁当を予約されている方は、受付時に弁当券をお渡ししますので、昼食時にお弁当をお受け取り下さい。
- ◇ 18日(日)の大学生協の営業はありません。最寄りのコンビニエンスストア・弁当屋は「琉大東口」にあります。

懇親会：11月17日(土) 大学生協中央食堂 18:30～20:30

- ◇ 大学生協の食堂で行います。ポスター発表終了後、すみやかに集まり下さい。講演会場より徒歩約5分です。
- ◇ 事前に参加申し込みをされている方の名札にはシールが貼られていますので、ご確認ください。
- ◇ 当日参加(4,500円)も受け付けますので、17日(土)昼休みまでに受付にて申し込み下さい。

総会：11月18日(日) A会場 13:30～14:30

記念写真：11月18日(日) 法文学部講義棟横 12:15～

- ◇ 11月18日(日)の午前の口頭発表終了後すぐ、会場横の屋外の広場にて行います。
- ◇ 写真は、会誌(和文誌)にも掲載されますので、写真を申し込まれていない方もご参集下さい。

大会事務局：〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1番地 琉球大学熱帯生物圏研究センター内
E-mail: ota@eve.u-ryukyu.ac.jp (共通) TEL: 098-895-8937 (太田) 098-895-8357 (本多)
FAX: 098-895-8966 (共通) 注意: 開催日は電話に出ることはできません。

講演される方へ

口頭発表をされる方

講演は1題につき発表時間12分、質疑応答が3分です。10分、12分、14分30秒に予鈴を鳴らします。PCプロジェクターのページ数に制限はありませんが、発表時間を厳守して下さい。会場にはMacintosh (OSX 10.4), Windows (XP)を用意します。使用できるソフトはMicrosoft PowerPointとAdobe (Acrobat) Readerのみです。PowerPointのバージョンは、Macintoshは2004, Windowsは2003です。なお個人のノートパソコンのプロジェクターへの接続はできません。あらかじめご了承下さい。

当日は、発表用ファイルをCDにてご持参下さい。CDの不具合も予想されますので、万一に備えフラッシュメモリー等でもバックアップをご用意頂ければ幸いです。なお当日の受付は混雑が予想されますので、可能な方はCDの事前提出をお願いいたします。大会事務局まで郵送していただければ、事務局で作動の確認をした上で連絡をさし上げます。

当日のデータ入力に関しては、受付横にコンピューターを用意いたしますので、各自まず指定されたフォルダにコピーし作動を確認した上で、CDを受付にご提出下さい。11月17日(土)の午前中に発表される方は9時45分までに、午後に発表される方は12時45分までに必ずコピーをすませ、CDを提出して下さい。18日(日)に発表される方は、17日(土)のポスター発表の時間を利用して下さい。それぞれ上記の時間に遅れると、最悪の場合、発表できなくなってしまう事態も考えられますので、くれぐれもご注意下さい。

なお備え付けのコンピューターの使用は、ファイルのコピーとファイルのオープンの確認のみにとどめてください。受付での文字やレイアウトの変更は他の発表者の方々のご迷惑になりますので、かたくお断り申し上げます。文字化けやレイアウトのずれがないよう、システムに含まれるフォント (MacintoshはOsaka等、WindowsはMSゴシック等) を使用すること、各スライドには余白を十分に取ること、アニメーションは入れずに製作することをお勧めいたします。特にPower Pointのバージョンが異なると、レイアウトが変わることがありますのでご注意下さい。上のバージョンをご使用でない方、ご心配な方は一度JPEG形式の画像ファイルで保存し、それを再度スライドとして作成する等の対応をお願い申し上げます。

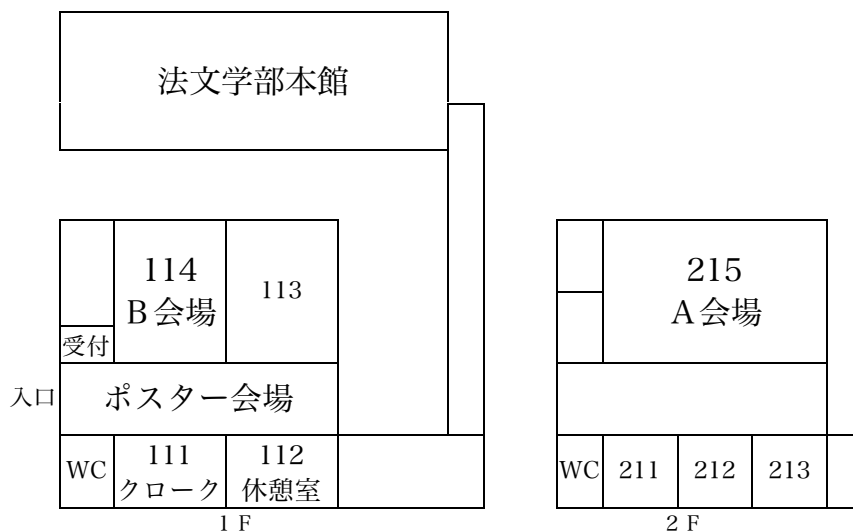
ポスター発表される方

ポスター会場は、1階ロビーです。パネルに講演番号を付けていますので、所定の場所に貼って下さい。パネルは幅90cmX高さ180cmです。前半(15:45~17:00)には奇数番号、後半(17:00~18:15)には偶数番号の発表者がポスター前でお立ち下さい。ただし、都合が悪い場合には奇数偶数にこだわらず、どちらかにお立ちいただいてかまいません。ポスターは講演番号にかかわらず、17日(土)の受付開始時からお貼りいただいて結構です。ポスターは18日(日)の16時30分までに剥がして下さい。この時刻までに剥がされていないポスターは事務局で処分いたします。

講演要旨の提出

電子データでの提出をお願いします。詳細は次ページの和文誌編集委員会からのお知らせをご覧ください。

会場案内図



日本爬虫両棲類学会第46回大会 講演要旨の作成と提出に関する要項

◆はじめに

今大会の講演要旨は、2008年3月発行予定の爬虫両棲類学会報第2008巻第1号に掲載されることになっています。講演要旨を掲載するにあたっては、原稿の回収や編集が大きな負担となるため、次のような要項で講演要旨の電子データによる提出をお願いしております。今大会も皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。なお、どうしても電子データの提出が困難な場合は従来通りの手書き原稿のみで結構です。

◆講演要旨作成について

口頭発表、ポスター発表とも講演要旨を作成して下さい。表題、発表者氏名、所属、英文表題、英文氏名、本文の順にお書き下さい。本文の字数は660字（22字 x 30行）以内、英文の場合は200 words以内です。パソコンやワープロの場合は、A4判用紙に読み取れる大きさの字で作成して下さい。レイアウトは爬虫両棲類学会報第2007巻第1号の学会大会講演要旨をご参照下さい。手書きの場合は400字詰め原稿用紙にお書き下さい。

◆電子データ提出について

1. メールをご利用になる方

11月15日12時までに講演要旨をメールの添付ファイルとしてお送り下さい。利用できるワープロソフトは、MSワード、一太郎、EGWORD、Jedit4です。この場合、大会当日に印刷原稿をお持ちいただく必要はありません。これらのソフトがない場合は、メールの本文に講演要旨を入れて下さい。ただし、その場合は、イタリック体や特殊文字が利用できませんで、それらを指示した印刷原稿を大会当日に受付に提出して下さい。

2. 添付するファイル名について

ファイル名は、必ず『講演番号-第1発表者氏名』としてください。（例：P01-沖縄太郎.doc）

講演要旨送り先アドレス：abst@frog.econ.keio.ac.jp

3. メールをご利用にならない方

大会当日に印刷原稿およびその電子データをご提出下さい。利用出来るワープロソフトはメールの場合と同じです。それらのソフトがない場合は、テキスト形式のデータをお願いします。電子データは、フロッピーディスク、CD-R、CD-RWのいずれかに保存して下さい。特にご要望のない限り、媒体の返却はいたしませんのでご了承下さい。提出はいつでも大会受付をお願いします。

注意：パソコンで表記出来ない漢字が含まれる場合は、表記可能な漢字に代替して頂くか、それが困難な場合は、印刷原稿に指定の漢字を朱書きしてご提出下さい。

◆手書き原稿のみを提出の場合

口頭発表、ポスター発表ともに、大会当日に受付へご提出下さい。

日本爬虫両棲類学会
和文誌編集委員会

特別講演

11月18日（日）A会場（215号室）14:30～14:45

L-01 高良鉄夫（琉球大・名誉教授）

「琉球の七不思議:ハブ属の奇異な分布について」

シンポジウム

「琉球列島産ヘビの生態学的研究—摂食生態と場所利用—」

11月18日（日）A会場（215号室）14:45～16:25

（座長：西村昌彦）

S-01 戸田 守・森 哲（京都大・院理・動物）

「ヒメハブの活動性と場所利用の季節変動：餌となる冬季繁殖ガエルのいる島と
いない島の比較」

S-02 増永 元（琉球大・熱生研）

「魚卵専食者であるイイジマウミヘビの摂食生態と場所利用について」

S-03 細 将貴（京都大・院理・動物）

「島の生物地理学と共進化：南琉球におけるセダカヘビとカタツムリの共進化過
程」

自由集会

11月18日（日）16:45～19:00

カエル探偵団

会場：A会場（215号室）

世話人：福山欣司（慶応大・生物）

カメ懇話会

会場：B会場（144号室）

世話人：小菅康弘（カメネットワーク）

系統地理談話会

会場：休憩室（112号室）

世話人：本多正尚（琉球大・教育）

口頭発表 A会場 (215号室) 11月17日(土)

(座長：西川完途)

- A-01 10:10~10:25 ○松井正文 (京都大・院人環)・富永 篤 (琉球大・21世紀COE)
「コオロギヒキガエル属の進化史」
- A-02 10:25~10:40 ○島田知彦・松井正文 (京都大・院人環)・ポール=ヤンプン・マクラリン=ラキム (サバ公園)・モハメッド=マリアティ (サバ大学)
「ボルネオ島の固有種ホワイトヘッドハヤセガエル*Meristogenys whiteheadi*にみられる隠蔽種について」
- A-03 10:40~10:55 ○中村泰之 (琉球大・院理工・海環)・太田英利 (琉球大・熱生研)
「沖縄島の両生類が示した最終氷期以降の体サイズの変化」
- A-04 10:55~11:10 関谷國男 (新潟大)
「佐渡島の両生類 (2)」
- A-05 11:10~11:25 ○吉村友里 (岐阜大・院農)・千家正照・伊藤健吾 (岐阜大・応用生物)
「蛙の蛙は旅に出るのか？」
- A-06 11:25~11:40 ○宇野好宣 (北海道大・院生命科学・生命システム)・西田千鶴子 (北海道大・創成研・動物染色体)・中村正久 (早稲田大・教育・生物)・伊藤道彦 (北里大・理・生物情報)・松田洋一 (北海道大・創成研・動物染色体)
「両生類における性染色体の起源とその進化に関する分子細胞遺伝学的研究」

昼休み 1時間20分

(座長：倉林 敦)

- A-07 13:00~13:15 ○倉石典広・松井正文 (京都大・院人環)
「シロアゴガエル複合群の遺伝的変異」
- A-08 13:15~13:30 ○富永 篤 (琉球大・21世紀COE)・太田英利 (琉球大・熱生研)・松井正文 (京都大・院人環)
「ミトコンドリアDNAの塩基配列でみたシリケンイモリ (両生綱, 有尾目) の遺伝的変異」
- A-09 13:30~13:45 ○西川完途・松井正文 (京都大・院人環)・江 建平 (中国科学院・成都生物研)・莫 運明 (広西自然博)・富永 篤 (琉球大・21世紀COE)・吉川夏彦 (京都大・院人環)・費 梁 (中国科学院・成都生物研)
「中国産サンショウウオ属2種の生息環境と分子系統学的位置」
- A-10 13:45~14:00 ○吉川夏彦・松井正文・西川完途 (京都大・院人環)
「近畿地方にみられたハコネサンショウウオの遺伝的二型について」
- A-11 14:00~14:15 ○奥村尚子 (広島大・院総合科学)・桑原一司 (広島大・院国際協力/広島市安佐動物公園)・井鷲裕司 (京都大・農)
「人工繁殖オオサンショウウオのマイクロサテライトマーカーによる親子解析」

休憩 15分

- A-12 14:30~14:45 ○Mohammad Shafiqul Alam, Takeshi Igawa (Inst. Amphibian Biol., Grad. Sch. Sci., Hiroshima Univ.), Md. Mukhlesur Rahman Khan (Bangladesh Agr. Univ.), Mohammed Mafizul Islam (Inst. Amphibian Biol., Grad. Sch. Sci., Hiroshima Univ.), Mitsuru Kuramoto (Munakata City), Masafumi Matsui (Grad. Sch. Hum. Environ. Stud., Kyoto Univ.), Atsushi Kurabayashi, Masayuki Sumida (Inst. Amphibian Biol., Grad. Sch. Sci., Hiroshima Univ.)
「Genetic divergences and evolutionary relationships in six species of the genera, *Hoplobatrachus* and *Euphlyctis*, from Bangladesh and other Asian countries revealed by mitochondrial gene sequences and crossing experiments」
- A-13 14:45~15:00 ○Nia Kurniawan (Inst. Amphibian Biol., Grad. Sch. Sci., Hiroshima Univ.), Daicus M. Belabut, Hoi Sen Yong (Inst. Biol. Sci., Fac. Sci., Univ. Malaya), Ratanasate Wanichanon (Dept. Anat., Phramonkhutkloa Med. Coll.), Md. Mafizul Islam (Inst. Amphibian Biol., Grad. Sch. Sci., Hiroshima Univ.), Md. Mukhlesur Rahman Khan (Bangladesh Agr. Univ.), Tjong Hon Djong (Dept. Biol., Fac. Sci., Andalas Univ.), Djoko T. Iskandar (Dept. Ecol. Biosyst., Sch. Life Sci. Tech., Inst. Teknologi Bandung), Midori Nishioka, Masayuki Sumida (Inst. Amphibian Biol., Grad. Sch. Sci., Hiroshima Univ.)
「Genetic divergences and speciation in *Fejervarya cancrivora* from Indonesia and other Asian countries inferred from morphological observations, crossing experiments and molecular techniques」
- A-14 15:00~15:15 ○Mohammed Mafizul Islam, Naoko Kurose, Mohammad Shafiqul Alam (Inst. Amphibian Biol., Grad. Sch. Sci., Hiroshima Univ.), Md. Mukhlesur Rahman Khan, Mahmudul Hasan (Dept. Fish. Biol. Genet., Bangladesh Agr. Univ.), Mitsuru Kuramoto (Munakata City), Masayuki Sumida (Inst. Amphibian Biol., Grad. Sch. Sci., Hiroshima Univ.)
「Differentiation of the *Fejervarya* species complex from Bangladesh inferred from morphometric data, molecular techniques and crossing experiments, with special reference to the description of a new species」
- A-15 15:15~15:30 ○Tjong Hon Djong, Manabu Kotaki, Mohammed Mafizul Islam (Inst. Amphibian Biol., Grad. Sch. Sci., Hiroshima Univ.), Masafumi Matsui (Grad. Sch. Hum. Environ. Stud., Kyoto Univ.), Md. Mukhlesur Rahman Khan (Bangladesh Agr. Univ.), Masayuki Sumida (Inst. Amphibian Biol., Grad. Sch. Sci., Hiroshima Univ.)
「Morphological divergences, reproductive isolating mechanisms and molecular phylogenetic relationships among Indonesia, Thailand, and Bangladesh populations of the *Fejervarya iskandari* group (Anura, Ranidae)」
- A-16 15:30~15:45 Mi-Sook Min, Sun Kyung Park, ○Kelly Lasater, Hae Jun Beak (CGRB, Coll. Vet. Med., Seoul Natl. Univ.), Dae Sik Park (Dept. Sci. Edu., Kangwon Natl. Univ.), Hang Lee (CGRB, Coll. Vet. Med., Seoul Natl. Univ.)
「Genetic diversity of the gold spotted pond frog, *Rana plancyi chosenica*」

口頭発表 B会場 (114号室) 11月17日(土)

(座長：増永 元)

- B-01 10:10~10:25 ○城野哲平 (京都大・院理・動物)
「*Gekko*属ヤモリ 3種における発声行動の比較」
- B-02 10:25~10:40 戸田 守 (京都大・院理・動物)
「中琉球の*Gekko*属ヤモリの体サイズ変異：種間競争の影響の可能性」
- B-03 10:40~10:55 池内 敢 (京都大・院理・動物)
「ヒルヤモリと夜行性ヤモリの社会行動の比較」
- B-04 10:55~11:10 ○戸田光彦・中川直美・鋤柄直純 (自然研)・竹中 踐 (北海道東海大・工)・小松謙之 (シーアイシー)
「小笠原諸島におけるグリーンアノールの個体群構造」
- B-05 11:10~11:25 ○竹中 踐 (北海道東海大・工)・戸田光彦・中川直美 (自然研)
「小笠原のグリーンアノールの卵生産の生態学的研究」
- B-06 11:25~10:40 ○森 哲 (京都大・院理・動物)・ショーン=ビンセント (ルイス・マックギヒー・スクール)
「京都府北山におけるヘビ類の食性：特にシマヘビとヤマカガシの捕食特性の比較」

昼休み 1時間20分

(座長：矢部 隆)

- B-07 13:00~13:15 ○片岡友美・佐藤方博 (生態工房)
「都市公園におけるクサガメの行動様式」
- B-08 13:15~13:30 ○多田哲子・坂 雅宏 (京都保環研)
「クサガメ雌における性成熟到達時期と卵巣サイクルについて」
- B-09 13:30~13:45 ○石中政樹 (琉球大・院理工・海自)・太田英利 (琉球大・熱生研)
「ヤエヤマシガメの日周活動：特に夜間における活動性の上昇について」
- B-10 13:45~14:00 ○中本美香 (島根大・院生物資源)・星川和夫 (島根大・生物資源)
「島根県松江市・朝酌川における淡水性カメ類の分布および種間競合の可能性」
- B-11 14:00~14:15 光岡佳納子 (自然研)
「千葉県印旛沼流域におけるカミツキガメ防除モデル事業についての報告」

休憩 15分

(座長：安川雄一郎)

- B-12 14:30~14:45 ゴリス・リチャード (横浜市大・医・神経解剖)
「ヘビのピット器官はなぜ「目」と言えるか- 可視光と赤外線レセプターの比較」
- B-13 14:45~15:00 疋田 努・岡本 卓・清 拓哉 (京都大・院理・動物)・松井正文 (京都大・院人環)
「ボルネオ・サバ州から採集されたホソユビヤモリの未記載種について」
- B-14 15:00~15:15 ○岡本 卓・大淵希郷・疋田 努 (京都大・院理・動物)
「日本列島産トカゲ属の形態変異」
- B-15 15:15~15:30 ○片山 亮・戸田 守 (京都大・院理・動物)
「シマヘビの体鱗列数における性的二型」
- B-16 15:30~15:45 ○高橋亮雄 (琉球大・21世紀COE)・大塚裕之 (鹿児島大・総研博)・太田英利 (琉球大・熱生研)
「中琉球の上部更新統から産出したセマルハコガメ属化石の分類学的位置づけとその生物地理学的意義」

口頭発表 A会場 (215号室) 11月18日(日)

(座長：伊原禎雄)

- A-17 9:00～9:15 ○福山欣司 (慶應大・生物)・沼澤マヤ (フロッグハウス)
「ダルマガエルの仲間におけるメスの攻撃的行動」
- A-18 9:15～9:30 ○高井孝太郎・岩熊敏夫 (北海道大・環境科学)
「トノサマガエルの初見日はなぜ遅くなってきたか」
- A-19 9:30～9:45 張 東君(台北動物園保育教育基金会)
「ショラアオガエル保全の軌跡と検討」
- A-20 9:45～10:00 ○見澤康充・深沢 博 (建設環境研)・小宮秀樹・鳥居隆之 (湯西川ダム工事事務所)
「栃木県湯西川ダム周辺地域におけるモリアオガエルの生息状況と保全のとりくみ」
- A-21 10:00～10:15 ○宇根有美・嘉手苺将 (麻布大・病理)・松井久実 (麻布大・生理)・黒木俊郎 (神奈川衛研)・五箇公一 (国環研)
「アフリカツメガエル*Xenopus laevis*由来カエルツボカビの浸淫状況と病原性の検討 (予備的研究)」
- A-22 10:15～10:30 宇根有美・○嘉手苺将・中島康太 (麻布大・病理)・黒木俊郎 (神奈川衛研)・五箇公一 (国環研)
「ペット用外国産カエル由来カエルツボカビの感染性と病原性」

休憩 15分

(座長：太田 宏)

- A-23 10:45～11:00 持田浩治 (京都大・院理・動物)
「シリケンイモリの警告シグナル」
- A-24 11:00～11:15 ○松木崇司・松井正文 (京都大・院人環)・渡部祐子 (東京都)
「胃洗浄がカスミサンショウウオに与える影響について」
- A-25 11:15～11:30 ○佐藤孝則 (天理大・おや研)・中林成広 (北海道両爬研)
「北海道釧路湿原に分布するキタサンショウウオの生息地評価」
- A-26 11:30～11:45 桑原一司 (広島大・院国際協力/安佐動物公園)
「オオサンショウウオの繁殖行動の解析」
- A-27 11:45～12:00 ○岡田 純 (鳥取大・院農)・岡田珠美 (氷ノ山響の森)
「鳥取県日野川におけるオオサンショウウオ食性」
- A-28 12:00～12:15 ○田口勇輝 (京都大・院地環)・三橋弘宗 (兵庫県博)・夏原由博 (京都大・院地環)
「オオサンショウウオの遡上を助ける小さな工事」

口頭発表 B会場 (114号室) 11月18日(日)

(座長：高橋亮雄)

- B-17 9:00~9:15 ○野呂美幸・上嶋朝佳・阿部玄武 (東北大・院生命)・真鍋 真 (科博)・田村宏治 (東北大・院生命)
「四肢形態形成に主眼を置いたソメワケササクレヤモリ胚の比較発生的解析」
- B-18 9:15~9:30 ○大淵希郷・岡本 卓・疋田 努 (京都大・院理・動物)
「日本列島産トカゲ属の体表物質について」
- B-19 9:30~9:45 ○勝連盛輝・城間 侔・寺田考紀 (沖縄衛環研・環境)
「沖縄本島南部における外来種サキシマハブの分布」
- B-20 9:45~10:00 ○藤井 亮 (琉球大・院理工・海環)・太田英利 (琉球大・熱生研)
「ミトコンドリアDNAの配列変異に基づく、ミナミイシガメ (爬虫綱, イシガメ科) の亜種分類の再検討」
- B-21 10:00~10:15 ○松田洋一・西田千鶴子 (北海道大・創成研)・樽井 寛 (理研CDB)・石島淳子・小坂あゆみ・松原和純 (北海道大・創成研)・阿形清和 (京都大・院理)
「比較ゲノムマッピングから推定されたArchosauromorphaの祖先核型と核型進化」
- B-22 10:15~10:30 ○松原和純 (北海道大・創成研)・樽井 寛 (理研CDB)・鳥羽通久 (蛇研)・山田和彦・西田千鶴子 (北海道大・創成研)・阿形清和 (京都大・院理)・松田洋一 (北海道大・創成研)
「ヘビにおける性染色体の起源と分化過程の追跡」

休憩 15分

(座長：戸田 守)

- B-23 10:45~11:00 ○住田正幸・佐藤直樹・倉林 敦 (広島大・院理・両生研)・大海昌平 (奄美市・農林課)・太田英利 (琉球大・熱生研)・勝連盛輝 (沖縄衛環研)・菅原芳明・藤井 保 (県立広島大・人間文化)
「絶滅危惧種イシカワガエルにおける種内分化：形態観察, 交雑実験, アロザイムおよびmtDNA分析による解明」
- B-24 11:00~11:15 ○尾形光昭 (横浜市繁殖センター)・大谷浩己 (広島大・院理・両生研)・長谷川嘉則 (藤田保健衛生大・総医研)・三浦郁夫 (広島大・院理・両生研)
「ツチガエルの近畿地方と中国地方の境界領域における遺伝的調査」
- B-25 11:15~11:30 ○小瀧 学・倉林 敦 (広島大・院理・両生研)・松井正文 (京都大・院人環)・Wichase Khonsue (Fac. Sci., Chulalongkorn Univ.)・Tjong Hon Djong (広島大・院理・両生研)・Manuj Tandon (Natl. DNA Anal., Kolkata, India)・住田正幸 (広島大・院理・両生研)
「ミトコンドリア・核遺伝子に基づくタイおよび近隣国産ヌマガエル種群と近縁属の遺伝的多様性と系統関係」
- B-26 11:30~11:45 ○西澤俊孝 (広島大・院理・両生研)・佐野尚美 (高知女子大・生活科学)・國原多佳子・藤井 保 (県立広島大・生活科学)・倉林 敦・住田正幸 (広島大・院理・両生研)
「形態比較およびミトコンドリアDNA解析に基づくカジカガエルにおける種内分化」
- B-27 11:45~12:00 ○太田英利 (琉球大・熱生研)・永井芳子 (琉球大・院理工・海自)・増永 元 (琉球大・熱生研)・鳥羽通久 (蛇研)
「マダラウミヘビ・クロガシラウミヘビ複合種群 (爬虫綱, コブラ科) における地理的変異と個体群分類」

ポスター発表 (1階ロビー)

11月17日(土) 前半(奇数) 15:45~17:00, (偶数) 後半17:00~18:15

- P-01 Jae-Young Song (Natl. Park Res. Inst., KNPS), Bae-Geun Lee (Species Restor. Center, KNPS),
○Kyu-Seong Goo (Dept. Biol., Kyonggi Univ.)
「The effect of eco-bridge in Songgye Valley, Woraksan National Park」
- P-02 ○小賀野大一・笠原孝夫・吉野英雄・八木幸市・田中一行(千葉県野生生物を考える会)
「下総台地の谷津田におけるトウキョウサンショウウオの産卵時期」
- P-03 ○坂本真理子(熊本大・自然科学)・阪田和弘(西日本技術開発)・松井正文(京都大・院人環)・内野明德(熊本大・自然科学)
「同所的に生息するブチサンショウウオ2型の生活史の比較」
- P-04 藤田宏之(京都大・生態研)
「兵庫教育大学周辺のカミサンショウウオ生息地の現状」
- P-05 ○太田 宏(東北大・生命科学・生態システム)・植田健仁(北方生物研)・照井滋晴(環境把握推進ネットワーク)・一北民郎(北電総合設計)・佐藤孝則(天理大・おや研)
「テレメトリー法によるキタサンショウウオの行動圏調査」
- P-06 伊原禎雄(奥羽大)
「亜高山におけるアカハライモリの成体による同種の卵の捕食の意味」
- P-07 秋山繁治(清心女子高)
「マイクロチップを使ったアカハライモリの水田付近での移動の追跡の試み」
- P-08 伊藤寿茂(新江ノ島水族館)・吉田豊(栃木県水試)
「栃木県大田原市羽田地区におけるカエル類—その生息状況とマツカサガイ幼生との接触機会—」
- P-09 大澤啓志(慶應大・総合政策)・一ノ瀬友博(兵庫県大・自然・環境科学研)・高橋俊守(宇都宮大・農)・杉村 尚(自然研)・加藤和弘(東京大・院農生・緑地植物)
「関東北部の丘陵地におけるカエル類の種組成および季節消長」
- P-10 ○佐々木史江(鶴見大・歯・生物)・松田久司(八幡浜市)・阿部道生(鶴見大・歯・生物)・福山欣司(慶應大・生物)
「横浜市瀬上谷戸のヤマアカガエルとアズマヒキガエルの卵塊数について」
- P-11 ○戸金 大(明治大・院農)・福山欣司(慶應大・生物)・倉本 宣(明治大・農)
「トウキョウダルマガエルの成長と性成熟の関係」
- P-12 ○森田敏弘・亀山 剛(復建調査設計)
「広島県におけるダルマガエル保護のとりくみ—地域で取り組む保護活動—」
- P-13 ○南部久男(富山科博)・福田 保(富山南高)・荒木克昌(ワイルドアイズ)
「溪流におけるヒキガエル類の繁殖場所」
- P-14 大海昌平(奄美両生類研究会)
「奄美大島におけるイシカワガエル幼生の生態について」
- P-15 ○勝部五葉(琉球大・理・海自)・太田英利(琉球大・熱生研)
「沖縄島南部における外来種シロアゴガエルと在来カエル類の繁殖期について」
- P-16 ○小松慧史(琉球大・理・海自)・太田英利(琉球大・熱生研)
「南大東島における外来性のヒキガエル属2種(両生綱, 無尾目)の食性」
- P-17 ○鎌田美由紀(琉球大・理・海自)・太田英利(琉球大・熱生研)
「南大東島におけるヒキガエル属2外来種(両生綱, 無尾目)の繁殖生態」
- P-18 ○松井久実(麻布大・獣医・生理1)・福山欣司(慶應大・生物)・亀田ももこ(麻布大・獣医・生理1)・五箇公一(国環研)・宇根有美(麻布大・獣医・病理)
「カエルツボカビ感染水を用いた日本在来両生類23種に対する暴露実験(経過報告)」

- P-19 ○中山翔太・石塚真由美（北海道大・獣医）・田中- 上野寛子（明治学院大・生物）・坂本健太郎・藤田正一（北海道大・獣医）
「アカハライモリにおけるシトクロムP450 1Aのcharacterization」
- P-20 ○本多正尚（琉球大・教育）・富永 篤（琉球大・21世紀COE）・田中 聡（沖縄県博）・松井正文（京都大・院人環）・太田英利（琉球大・熱生研）
「沖縄諸島におけるイボイモリ（両生綱, イモリ科）の遺伝的変異：ミトコンドリアDNAの塩基配列にもとづく評価」
- P-21 ○井川 武・倉林 敦・住田正幸（広島大・院理・両生研）
「カジカガエルにおける性連鎖遺伝子AAT-1の構造解析」
- P-22 ○倉林 敦・住田正幸（広島大・院理・両生研）
「アカガエル上科主要3グループ(アカガエル・ヒメアマガエル・サエズリガエル類)の系統関係とクラガエルおよびクチボソガエルの位置：比較ミトコンドリアゲノム解析による推定」
- P-23 ○田中- 上野寛子（明治学院大・生物）・松井正文（京都大・院人環）・佐藤孝則（天理大・おや研）・中林成広（北海道両爬研）
「非侵襲的試料採取法を用いた釧路湿原に分布するキタサンショウウオの遺伝的多様性調査」
- P-24 ○曾我美幸・沖本愛子・藤井 保・菅原芳明（県立広島女子大・生活科学・健康科学）・浮穴和義（広島大・院総科・生命科学）・佐藤直樹・住田正幸（広島大・院理・両生研）
「絶滅危惧種イシカワガエルの皮膚に存在する抗菌ペプチド」
- P-25 ○今津健志（明治大・院農・応植）・倉本 宣（明治大・農・応植）・長谷川雅美（東邦大・理・生物）
「谷津田に生息するクサガメ *Chinemys reevesii* の個体群構成」
- P-26 矢部 隆（愛知学泉大・コミュニティ政策）
「愛知県岡崎市における淡水生カメ類の分布」
- P-27 大谷 勉（高田爬虫類研・沖縄）・○喜屋武優子（沖縄科技機構・情報処理生物）・安川雄一郎（高田爬虫類研・沖縄）・太田英利（琉球大・熱生研）
「沖縄島北部におけるリュウキュウヤマガメの移動パターンと生息環境- 謝名城地区での標識再捕獲調査から-」
- P-28 ○森 貴久・野村邦夫・山本和哉・後藤臣平・藤澤ちはる（帝京科学大・アニマルサイエンス）
「アカミミガメとクサガメの潜水行動の比較」
- P-29 ○岡田夕季（名古屋大・院生命農）・矢部 隆（愛知学泉大・コミュニティ政策）・織田銃一（名古屋大・院生命農）
「ニホンイシガメ *Mauremys japonica* の発生段階表」
- P-30 ○栗山武夫・宮地和幸（東邦大・理・生物）・杉本雅純（東邦大・理・生物分子）・長谷川雅美（東邦大・理・生物）
「オカダトカゲの色彩パタンの地理的変異- 色素細胞の発生的研究-」
- P-31 ○山本友里恵（琉球大・院理工・海環）・太田英利（琉球大・熱生研）
「沖縄島北部で同所的に生息するヤモリ属2種間での相対一腹卵重量の比較」
- P-32 ○原 竜也（広環保協）・岡田 純（鳥取大・院農）
「広島県の神社におけるタワヤモリ *Gekko tawaensis* の移動と成長」
- P-33 和泉 剛（動物調査の招福堂）
「近畿地方におけるヘビ類の分布- 緯度, 高度, 気温と種構成」
- P-34 ○木寺法子（琉球大・院理工・海環）・太田英利（琉球大・熱生研）
「ヒメハブの母親による孵化幼体への保護と思われる行動の1観察例」
- P-35 ○鳥羽通久・森口 一（蛇研）
「送電線におけるヘビによる被害について」

- P-36 角田羊平 (京都大・院理・動物)
「餌動物の化学刺激に対するヒメハブの捕食反応：予備的実験」
- P-37 森口 一 (蛇研)
「野外放飼場におけるシマヘビの体温と体表温」
- P-38 ○Byoung-Soo Kim (Dept. Life Sci., Coll. Nat. Sci., Cheju Natl. Univ.), Hidetoshi Ota (Tropic. Biosph. Res. Center, Univ. Ryukyus), Hong-Shik Oh (Dept. Sci. Edu., Coll. Edu., Cheju Natl. Univ.)
「A study on the litter size of *Gloydius ussuriensis* from Jeju Island, Korea」
- P-39 ○Min-Ho Chang (Dept. Life Sci., Coll. Nat. Sci., Cheju Natl. Univ.), Hidetoshi Ota (Tropic. Biosph. Res. Center, Univ. Ryukyus), Jae-Young Song (Natl. Park Res. Inst., KNPS), Hong-Shik Oh (Dept. Sci. Edu., Coll. Edu., Cheju Natl. Univ.)
「Habitat use and home range of the glass lizard, *Takydromus wolteri*, in Jeju Island」
- P-40 ○安川雄一郎・大谷 勉 (高田爬虫類研・沖縄)・本多正尚 (琉球大・教育)
「リュウキュウヤマガメとクサガメ (爬虫綱：イシガメ科) の交雑とみられる雑種個体について」
- P-41 ○関 喜満 (琉球大・教育)・安川雄一郎 (高田爬虫類研・沖縄)・島袋恵理・本多正尚 (琉球大・教育)
「沖縄本島産のミナミイシガメ外来個体群の起源」
- P-42 宗近 功 (進化生物学研・資源動物)
「白化したヘビ (*Elaphe climacophora*) に見られた頭部鱗の変異」
- P-43 ○菊川信人・疋田 努 (京都大・院理・動物)
「ニホンカナヘビとアオカナヘビの頭骨形態の比較」
- P-44 ○田原義太慶 (琉球大・院理工・海自)・増永 元・太田英利 (琉球大・熱生研)
「琉球列島におけるエラブウミヘビ属 (爬虫綱: コブラ科) の遺伝的変異: ミトコンドリアDNAの塩基配列を指標として」